

## 事務局報告

## 第52回(2011年度第3回)新旧合同幹事会議事要録

日時:2011年10月1日(土)13:30~17:00

場所:中央大学理工学部新2号館3階2337セミナー室

出席者:南木会長,守田新会長,西田事務局長,那須庶務幹事,吉田新庶務幹事,工藤会計幹事(新編集副委員長),松本新会計幹事,西本新広報・渉外幹事,能城編集委員長,藤井行事副委員長

## 報告事項

1. 第8期会長・評議員選挙報告,新幹事の報告:第8期会長に守田益宗氏,評議員に南木睦彦,松下まり子,紀藤典夫,辻誠一郎の各氏が当選し,就任の承諾を得たことが報告された。新幹事には,西田治文事務局長,吉田圭一郎庶務幹事,松本みどり会計幹事,西本寛広報・渉外幹事,能城修一編集委員長,工藤雄一郎編集副委員長,佐々木由香行事委員長,庄田慎矢行事副委員長が新会長より指名され,就任したことが報告された。
2. 事務局の過失について:事務業務を委託している大学生協学会支援センターに,学会誌在庫紛失および委託料二重請求等の過失があったことが報告された。学会支援センターの井手氏より過失についての説明とお詫びがあった。幹事会側はこれらの過失に対して学会支援センターへ嚴重注意を行い,二度と同じような過失が起らないように業務体制,点検体制の強化を指示した。学会支援センター側もパート職員を増員して,体制改善を行うことを約束した。
3. 会員動向:2011年8月31日現在の会員数が報告された(名誉会員3名,賛助会員1社,一般会員361名,学生会員33名,団体会員9団体)。
4. 会費納入状況:会費4年未納の長期滞納者が7名(一般5名,学生2名)いることが報告され,評議員会と総会で審議のうえ,12月中旬までに入金が無ければ除名することを通知する文書を送付することにした。
5. 植生史研究の編集状況:第20巻第1号を2011年5月31日に,第20巻第2号を2011年9月30日に刊行したことが報告された。次号の第21巻第1号の編集状況については,現在原著3本,短報1本があり,査読中であることが報告された。
6. 学会賞・論文賞審査結果報告:第3回学会賞を高原光氏に,第1回論文賞を第17巻第1号掲載の工藤ほか論文(工藤雄一郎・小林謙一・江原英・中村俊夫:栃木県小山市寺野東遺跡から出土した縄文時代後・晩期の木組遺構の高精度年代測定)と第18巻第1号掲載の

渋谷論文(渋谷綾子:日本列島における現生デンプン粒標本と日本考古学研究への応用—残存デンプン粒の形態分類をめざして)の2編の論文に授与することが報告された。

7. 名簿作成状況:学会会員名簿の作成を学会支援センターに依頼し,印刷まで終了したことが報告された。10月上旬の第20巻2号の発送と同時に会員に配布することが報告された。
8. 第26回大会の準備状況:第26回大会の講演プログラムが仕上がったことが報告された。
9. 第32回談話会の報告:第32回談話会「植生史解明のための室内実験法5—初心者のための出土種実の分析・同定法—」の参加者と会計について報告があった。参加者は22名で,盛況であったことが報告された。
10. 東日本大震災に関わる会費免除について:被災者に対して一年間の会費免除を募集した結果,3名の会員から申請があり,2012年度の会費を免除することにした。

## 審議事項

1. 第27回大会開催地について:第27回大会の開催地を審議し,新潟県立歴史博物館と調整して総会までに日程を決定することになった。
2. 第34回談話会について:第34回談話会の案について審議した。前回の談話会参加者からの要望にもあった,レプリカ法の講習会の案を行事委員会で検討してもらうことにした。
3. 事務局委託継続について:事務局の過失に伴い,事務委託業務を大学生協学会支援センターに引き続き依頼するかを審議した。重大な過失はあったものの,低価格での委託業務によって幹事の仕事が軽減されており,学会支援センターの業務改善を約束させたことや,幹事側のチェック体制も強化することにより,来年度も引き続き業務委託することにした。
4. 賛助会員の規程・内規の改訂:学会費の値上げに伴い,賛助会員の会費値上げと特典の修正案を審議した。
5. IPC/IOPC2012協力委員会:国際花粉学会議/国際古植物会議2012に参加する国内外の学生のうち,日本植生史学会の協力委員会が主催するセッションで講演を行う学生に対して,日本植生史学会から補助金を支出する案を審議し,評議員会にかけることにした。
6. 新旧幹事の引き継ぎ:各幹事の入れ替わりに伴い,引き継ぎを行った。

### 第53回(2012年度第1回)新旧合同幹事会議事要録

日時:2011年11月4日(金)17:40~20:00,11月5日(土)9:00~10:30

場所:弘前パークホテル・ロビー,弘前大学人文学部1階会議室

出席者:南木前会長,守田新会長,西田事務局長(継続),那須前庶務幹事,吉田新庶務幹事,工藤前会計幹事(新編集副委員長),松本新会計幹事,佐々木前広報・渉外幹事(新行事委員長),西本新広報・渉外幹事,能城編集委員長(継続),近藤前行事委員長

#### 報告事項

1. 会員動向:2011年9月30日現在の会員数が報告された(名誉会員3名,賛助会員1社,一般会員361名,学生会員32名,団体会員9団体,および除名会員1名)。なお,会費長期滞納者5名について,評議員会および総会の承認を得た上で,2011年12月15日までに会費の納入がない場合には除名することが報告された。
2. 植生史研究の編集状況:植生研究第21巻について,現在受理済みの論文が1本(原著),査読中の論文が4本あることが報告された。
3. IPC/IOPC2012のセッション案について:IPC/IOPC2012において植生史学会が共催するシンポジウム案が報告された。
4. 奨励賞について:2012年度総会において第8回奨励賞の候補者募集について公示することが報告された。
5. 2011年度の会計監査報告について:10月12日に江口誠一氏により会計監査が行われ,総会での報告を依頼した旨の報告があった。

#### 審議事項

1. 第27回大会について:第27回大会を2012年11月頃に新潟県において開催すべく準備することにした。日程および開催場所については詳細が決まり次第,学会ホームページやニュースレター等で会員に周知することとした。
2. 第34回談話会について:次回談話会で取り上げる企画案とその日程について検討した。
3. 賛助会員の規程・内規の改訂について:日本植生史学会会則および日本植生史学会内規<賛助会員に関する内規>の改訂案について審議し,一部文章を修正した上で承認した。
4. 寄付金を利用した補助金について:IPC/IOPC2012協力委員会共催シンポジウムで講演を行う国内外の学生に対し,メタセコイアシンポジウム実行委員会からの寄付金と前回大会余剰金を利用して総額30万円(1件5万

円の計6件)を補助する案について審議し,評議員会に提案することとした。

5. 自然史学会連合について:会員に適任者がいれば運営委員候補として推薦することとした。
6. 寄贈図書および交換雑誌の保管について:学会への寄贈図書および交換雑誌に3年間の保管期限を設定し,それを経過したものは大会において頒布するという案を検討し,評議員会に提案することとした。

### 2012年度評議員会議事要録

日時:2011年11月5日(土)11:00~12:30

場所:弘前大学人文学部1階会議室

出席者:南木陸彦(前会長),紀藤典夫,辻誠一郎評議員(欠席:松下まり子評議員),守田新会長,西田事務局長(継続),那須前庶務幹事,吉田新庶務幹事,工藤前会計幹事(新編集副委員長),松本新会計幹事,佐々木前広報・渉外幹事(新行事委員長),西本新広報・渉外幹事,能城編集委員長(継続),近藤前行事委員長

1. 2011年度の事業報告および会計報告・会計監査報告(総会資料)を承認した。主な案件は以下の通りである。
  - 1) 会員動向において除名1名の理由についての質問があり,会費長期滞納のためである旨の説明がなされた。
  - 2) 第1回論文賞の審査過程についての質問があり,内規に従って審査が行われたとの説明がなされた。なお,今回と同様に今後も審査過程について記録を残していくこととした。
  - 3) 会費長期滞納者について,総会の承認を得た上で,2011年12月15日までに会費の納入がない場合には除名することが報告された。
2. 2012年度事業計画の幹事会案を審議し,承認した。主な案件は以下の通りである。
  - 1) 学会費の値上げにともなう日本植生史学会会則および日本植生史学会内規(賛助会員に関する内規)の改訂案について審議し,承認された。なお,賛助会員について,賛助会員の趣旨に沿って学会活動を支援していただけるよう学会や一般会員との関係を向上させてほしいとの意見が出され,今後の検討課題とした。
  - 2) IPC/IOPC2012協力委員会共催シンポジウムで講演を行う国内外の学生に対し,メタセコイアシンポジウム実行委員会からの寄付金と前回大会余剰金からの寄付金を利用して総額30万円を1件5万円で6名に補助する案が提案され,承認された。

## 2012 年度総会議事要録

日時：2011 年 11 月 6 日 (日) 11:20 ~ 12:30

場所：弘前大学創立 50 周年記念会館

議長：清永丈太

### 報告事項

#### 1. 2011 年度事業報告

##### 1-1. 庶務

1) 会員動向 (2011 年 9 月 30 日現在)：名誉会員 3 名，賛助会員 1 社，一般会員 361 名，学生会員 32 名，団体会員 9 団体 (前年度比：名誉会員 ±0 名，賛助会員 ±0 社，一般会員 + 10 名，学生会員 - 4 名，団体会員 + 1 団体)。除名会員 1 名。

2) 2011 年度評議員会を 2010 年 11 月 27 日，総会を 11 月 28 日に名古屋大学野依記念学術交流館において開催した。

3) 第 8 期会長・評議員選挙を，松本みどり選挙管理委員長のもと 2011 年 6 月 1 日～7 月 8 日の日程で実施し，会長に守田益宗氏，評議員に南木睦彦，松下まり子，紀藤典夫，辻誠一郎の各氏が選出された。

4) 第 8 期幹事の編成を行い，事務局長：西田治文氏，庶務幹事：吉田圭一郎氏，会計幹事：松本みどり氏，広報・渉外幹事：西本寛氏，編集委員長：能城修一氏，編集副委員長：工藤雄一郎氏，行事委員長：佐々木由香氏，行事副委員長：庄田慎矢氏，自然史学会連合担当幹事：藤井伸二氏，IPC / IOPC2012 協力委員会委員長：能城修一氏，同副委員長：小畑弘己氏にそれぞれ就任を要請し，委嘱した。

5) 会員名簿を編集・刊行し，2011 年 10 月に会員に配布した。

6) 幹事会を 2011 年 11 月 27 日に名古屋大学野依記念学術交流館において，2011 年 4 月 23 日，2011 年 10 月 1 日に中央大学理工学部において開催した。

##### 1-2. 広報・渉外

1) ニュースレター 23 号・24 号・25 号を編集・刊行した。

2) メーリングリストによる情報配信を適宜行った。

3) ホームページの管理と更新を行った。

4) 企業広告の募集を行った。

5) 会誌「植生史研究」の PDF 版を作成し，第 17 巻第 2 号までホームページで公開した。

##### 1-3. 編集

会誌「植生史研究」第 18 巻第 2 号，第 19 巻第 1 号・第 2 号合併号，第 20 巻第 1 号・第 2 号を編集・刊行した。

##### 1-4. 行事

1) 第 25 回大会を 2011 年 11 月 27・28 日に名古屋大学野依記念学術交流館において開催した。大会実行委

員長：中村俊夫。大会実行委員：山本直人・南 雅代・森 勇一・工藤雄一郎・西本 寛・奥野絵美・小田寛貴・宮田佳樹・大森貴之・近藤 敏・藤井理恵。参加者：107 名。

2) 第 32 回談話会を 2011 年 7 月 16・17 日に中央大学理工学部において開催した。テーマ：「植生史解明のための室内実験法 5 - 初心者のための種実遺体分析・同定法 -」講師：南木睦彦。講師補助：佐々木由香・那須浩郎。世話人：西田治文・藤井理恵。参加者：21 名。

3) 第 26 回大会を 2011 年 11 月 5・6 日に弘前大学文京町キャンパスにおいて開催すべく準備した。

4) 第 33 回談話会を 2011 年 11 月 6・7 日に大会巡検として開催すべく準備した。

#### 2. 2011 年度決算報告 (次頁)・会計監査報告

2011 年度の決算が報告され，江口誠一会計監査より適正に処理されていたことが報告された。

#### 3. 第 3 回学会賞

日本植生史学会表彰規程 (2002 年 11 月 17 日制定，2009 年 11 月 8 日改正) に則って，第 3 回学会賞審査委員会 (南木睦彦委員長，植村和彦，鈴木三男，松下まり子，能城修一各委員) を設置し，審査を行った。その結果，第 3 回日本植生史学会学会賞は京都府立大学教授，高原 光氏に決定した。

受賞理由：高原氏は，スギの最終氷期以降の分布変遷過程など，花粉分析をもとに植物生態学的な観点で，西日本を中心とした最終氷期以降の植物群の時間的・空間的分布変遷について多くの研究を行ってきた。また，バイカル湖周辺やオホーツク海周辺の植生史研究を，ロシアと共同で早い時期に開始し，大陸域の植生史や現生植生の調査に基づいて，最終氷期の日本の植生変遷をとらえ直した。ここでは，ハインリッヒイベントなどのグローバルな気候変化の影響に加え火災が森林に与えた影響など，この時代の植生史研究を日本国内だけでの問題ではなく，グローバルな比較研究へと発展させた。これらの研究の過程で，多くの若手研究者を育て，多数の若手研究者との国際誌の共著論文がある。国際花粉学会・古植物学会 2012 年東京大会開催事務局長として，東日本大震災後の困難な状況のなかでも，日本の花粉学者・古植物学者や花粉症研究者をまとめ，準備にあたっている。本会においても，京都府立大学での大会開催，談話会の企画・実施，評議員としての参画，植生史研究への論文投稿など多くの貢献をし，また長らく日本花粉学会会長としてもこの分野の発展に貢献している。これらの多岐にわたる功績から，高原氏に日本植生史学会学会賞を授与することにした。

## 2011 年度決算報告 (2010 年 10 月 1 日～2011 年 9 月 30 日)

取 入		2011 年度予算	2011 年度決算	
会費 (一般・学生)		2,214,000	2,678,000	未納会費の回収効果
団体・賛助会員会費		79,000	87,000	
会誌売上		50,000	67,609	セット販売等
特別号 (2) 売上		10,000	3,250	
利息		1,000	496	
大会準備貸付金返金		100,000	100,000	
寄付金			279,018	名古屋大会 64,821 円, メタセコイアシンポジウム 214,197 円
学術著作権			13,484	
小 計		2,454,000	3,228,857	
前年度繰越金		3,148,045	3,148,045	
収入合計		5,602,045	6,376,902	プラス 1,140,052 円
支 出		2011 年度予算	2011 年度決算	
会誌印刷費				
	会誌印刷費 18 (2)	380,000	367,500	2011 年 1 月刊行
	会誌印刷費 19 (1)	380,000	0	2011 年 4 月刊行 (メタセコイアシンポジウム経費より印刷)
	会誌印刷費 19 (2)	380,000	0	2011 年 4 月刊行 (メタセコイアシンポジウム経費より印刷)
	会誌印刷費 20 (1)	380,000	353,850	2011 年 5 月刊行
	会誌印刷費 20 (2)	380,000	0	2011 年 9 月 30 日刊行 (印刷費次年度会計へ)
学会事務委託経費				2010 年 10 月～2011 年 8 月分, 9 月分は次年度会計へ
	データ引継ぎ費用	52,500	52,500	初年度のみ
	基本業務委託	453,600	404,250	会員管理・会誌発送・メールリスト配信管理等
	メール一斉配信追加分	31,500	0	発送可能回数見直しにより追加分なし
事務委託経費実費分				
	会誌郵送費 18 (2)	38,000	29,040	2011 年 1 月発送
	会誌郵送費 19 (1&2)	76,000	64,025	2011 年 4 月発送
	会誌郵送費 20 (1)	38,000	27,240	2011 年 5 月発送
	会誌郵送費 20 (2)	38,000	0	
	ニュースレター郵送費		31,600	
	ニュースレター印刷費		4,323	
	バックナンバー等郵送費		14,688	
	封筒・封筒印刷費		26,157	
	会費払込用紙印刷費		17,680	
	その他事務経費		3,623	学会印作成・収入印紙など
	事務局預り金		61,519	事務センターの経理ミスにより過払い分。次年度請求から差し引き
	会長・評議員選挙代行	65,000	46,007	
	会長・評議員選挙郵送費		47,640	
	会員名簿作成代行	92,400	10,114	名簿掲載確認紙印刷費のみ, 残りは 2012 年度支払
大会				
	2012 年度青森大会準備金	100,000	100,000	
	2012 年度青森大会準備貸付金	100,000	100,000	
選挙関連				
	会長・評議員選挙郵送費	40,000	0	事務委託経費で支出
	選挙用封筒印刷費	30,000	0	事務委託経費で支出
	選挙立会人旅費	10,000	4,300	
会員名簿関連				
	名簿作成用返信はがき代	40,000	0	事務委託経費で支出
	名簿印刷費	100,000	0	2011 年 10 月印刷予定
事務経費				
	郵送費	30,000	9,610	会誌編集郵送費等
	封筒印刷費	80,000	0	事務委託経費で支出
	一般事務経費	70,000	17,490	HP サーバー, 文房具, 銀行手数料等, 他は事務委託経費
	植生史研究 PDF 化関連	40,000	9,000	HP アップロード作業, 18 巻 2 号 PDF 化
	奨励賞副賞	60,000	60,000	受賞者 2 名分
幹事会出席旅費		150,000	177,100	会計監査旅費, 幹事会旅費 (東京 3 回)
自然史学会連合分担金		40,000	40,000	2 年分 (20,000 円/年)
IPC/IOPC2012 協力委員会経費		100,000	0	委員会旅費
談話会経費不足分			14,209	
支出合計		3,775,000	2,093,465	
次年度繰越金 (予備費)		1,827,045	4,283,437	

## 4. 第 1 回論文賞

日本植生史学会表彰規程 (2002 年 11 月 17 日制定, 2009 年 11 月 8 日改正) に則って, 第 1 回論文賞審査委員会 (南木睦彦委員長, 植村和彦, 鈴木三男, 松下まり子, 高原 光, 百原 新, 能城修一各委員) を設置し, 審査を行った。その結果, 第 1 回日本植生史学会論文賞は, 第 17 卷

第 1 号掲載の工藤ほか論文と第 18 巻第 1 号掲載の渋谷論文の 2 編の論文に決定した。なお, 規程では授賞は「原則として 1 件」とされている。両論文のいずれを推薦するかについての審査委員の評価は二分されていたが, 両論文ともに十分に論文賞に値するものと考え, 2 論文に授与と決定した。

## 2012年度予算案(2011年10月1日～2012年9月30日)

収入		2012年度予算	
会費	2,262,000		一般会員 6,000 円 × 361 人, 学生会員 3,000 円 × 32 人として計算
団体・賛助会員会費	92,000		団体会員 8,000 円 × 9 団体, 賛助会員 20,000 円 × 1 社として計算
会誌売上(特別号含む)	50,000		
利息	500		
大会準備貸付金返金	100,000		
小計	2,504,500		
前年度繰越金	4,283,437		
収入合計	6,787,937		
支出		2012年度予算	
学会事務委託経費			
事務委託経費実費分	基本業務委託 477,750		会員管理・会誌発送・メーリングリスト配信管理等, 13 か月請求分
	会誌郵送費 90,000		会誌 3 号分 (30,000 円 × 3 回)
	ニュースレター郵送費 30,000		1 回分
	ニュースレター印刷費 4,400		単価 11 円 × 400 会員
	バックナンバー等郵送費 15,000		
	封筒・封筒印刷費 30,000		
	会費払込用紙印刷費 20,000		
	会員名簿作成代行 92,400		名簿掲載確認紙印刷費のみ, 残りは 2012 年度支払い
印刷費	会誌印刷費 1,140,000		20 巻 2 号～ 21 巻 2 号 (各 380,000 円)
	名簿印刷費 100,000		
大会	2013 年度大会準備金 100,000		
	2013 年度大会貸付金 100,000		
事務経費	郵送費 10,000		バックナンバー郵送費, 会誌査読郵送費等
	一般事務経費 70,000		HP サーバー, 文房具, 銀行振り込み手数料など
	植生史研究 PDF 化関連 30,000		HP アップロード作業, 20 巻・21 巻 PDF 化を予定
	奨励賞副賞 30,000		受賞者 1 名分
幹事会出席旅費	250,000		会計監査旅費, 幹事会旅費 (東京 3 回)
自然史学会連合分担金	20,000		20,000 円 / 年
IPC/IOPC2012 協力委員会経費	100,000		委員会旅費
支出合計	2,709,550		
次年度繰越金(予備費)	4,078,387		

## 第 1 回論文賞受賞理由(審査委員長 南木睦彦)

工藤雄一郎・小林謙一・江原 英・中村俊夫「栃木県小山市寺野東遺跡から出土した縄文時代後・晩期の木組遺構の高精度年代測定」第 17 巻第 1 号

本論文は, 15 基と多数の木組遺構が検出されている寺野東遺跡において, 木組遺構の年代的な位置づけを明確化することを目的として, 詳細な  $^{14}\text{C}$  年代測定を実施して遺構の年代的な位置づけを明確にしたものである。縄文時代の年代測定においてウイグルマッチングを行いより高度な遺構木材の年代決定を試みた点に, 独創性が見られる。高精度の年代測定に基づいた編年は, 土器型式や遺構の年代・特性などを高い分解能で明らかにし, 各種考察の基礎となる。本論文ではそうした成果が示されている。今後の高精度年代測定の可能性を示した点で高く評価でき, 論文賞にふさわしいものである。

渋谷綾子「日本列島における現生デンプン粒標本と日本考古学研究への応用—残存デンプン粒の形態分類をめざして」第 18 巻第 1 号

本論文は, 残存デンプン分析という, これまでの日本の

植生史研究ではあまり取り組まれてこなかった手法に関して, その基礎として現生植物のデンプン粒標本の形態を検討し, 遺跡間の比較を行うための方法論的な議論を行って, 新しい方法論を吟味・確立した点で高く評価できる。本論文の形態分類法を用いると残存デンプン粒の植物種を絞りこむことが可能である。そこで, これまでその利用実態があいまいであった根菜類の利用の解明を可能にするなど, 過去の植生や人の植物利用を解明するための有効な手段として, 今後の発展が大いに期待できる。以上の点で本論文は論文賞にふさわしいものである。

## 5. 会員の除名

会費の長期滞納により 5 名の会員について, 2011 年 12 月 15 日まで納入がない場合は除名することにした。

## 6. 自然史学会連合活動報告

- 2010 年 11 月 28 日: 平成 22 年度連合講演会「東北の豊かな自然: ワンダー・イン・イーハトーブ」を岩手県立博物館にて開催した。
- 2011 年 2 月 17 日: 「林原自然科学博物館の今後」

関する声明」を出した。

3) 2011年6月17日：公開シンポジウム「緊急集会：被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて—学術コミュニティは何をすべきか?」を日本学術会議・統合生物学委員会自然史・古生物学分科会と共催で実施し、3万円の費用負担を含む協力を行った。

4) 2011年9月20日：文科省「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」の一部改正案について意見書を提出した。

5) 2011年9月5日：ホームページをリニューアルした。

6) 平成23年度連合講演会を2011年11月23日に静岡市清水テルサにて開催すべく準備した。「標高差7000mの自然史—富士山から駿河湾まで—」というテーマで話題を10題提供、詳細は自然史学会連合ホームページを参照。

7) 平成23年度運営委員会を開催した(5月6日, 6月24日, 9月1日)。

8) 博物館部会を開催した(6月29日, 9月1日)。

## 審議事項

### 1. 2012年度事業計画

#### 1-1. 庶務

1) 2012年度評議員会を2011年11月5日(土), 総会を2011年11月6日(日), 弘前大学文京町キャンパスにおいて開催する。

2) 第8回奨励賞の公募および選定を行う。

3) 幹事会を4回程度開催する。

#### 1-2. 広報・渉外

1) メーリングリストによる情報配信を適宜行う。

2) ニュースレターを編集・刊行し, 配信はメーリングリストにより行う。

3) ホームページの管理と更新を行う。

4) 会誌「植生史研究」に掲載する企業広告を募集する。

5) 会誌「植生史研究」のPDF化とホームページでの公開を行う。

#### 1-3. 編集

会誌「植生史研究」を編集し, 第21巻第1号・第2号を刊行する。

#### 1-4. 行事

1) 第26回大会を2011年11月5日(土)・6日(日)に弘前大学文京町キャンパスにおいて開催する。大会実行委員長：関根達人。大会実行委員：上條信彦, 杉野森淳子, 伊藤由美子, 根岸 洋, 片岡太郎, 清水 香, 能城修一, 佐々木由香, 近藤 敏。

2) 第33回談話会を2011年11月6・7日に大会巡検として開催する。テーマ：「下北半島猿ヶ森砂丘のヒバ

埋没林」。世話人：箱崎真隆, 三宅徹也, 伊藤由美子。

3) 第27回大会を2012年11月頃, 新潟県において開催すべく準備する。

4) 第34回談話会を2012年5月頃に開催すべく準備する。

## 2. 賛助会員の会則・内規の改訂案

賛助会員の会費改正に伴う日本植生史学会会則および日本植生史学会内規(賛助会員に関する内規)の改訂案について, 賛成多数により承認された。

## 3. IPC / IOPC 2012 協力委員会共催シンポジウム参加学生への補助金について

第13回国際花粉学会議と第9回国際古植物学会議の合同大会(IPC-XIII/ IOPC-IX 2012)を, 2012年8月23日~30日に日本(東京, 中央大学)で開催することになり, 日本植生史学会は後援学会としてこれをサポートする。この会議のIPC/IOPC2012 協力委員会共催シンポジウムで講演を行う国内外の学生に対し, メタセコイアシンポジウム実行委員会からの寄付金と前回大会余剰金からの寄付金を利用して補助金を分配する案について審議し, 賛成多数により承認された。

## 4. 2012年度予算案(前頁)

2012年度予算案について賛成多数で承認された。

### 第8回日本植生史学会「奨励賞」公募のお知らせ

日本植生史学会表彰規定に則り, 第8回奨励賞の候補者を募集いたします。奨励賞は, 植生史学の発展に将来貢献すると期待される35歳未満の会員を対象に, 2年に1回審査委員会が公募による候補者から決定します。2010年度総会において, 審査内容を単一の論文に対する評価から業績の総合評価に改正いたしました。候補者は自薦, 他薦を問いませんので, 会員の皆様には多数の応募をお寄せいただくよう, よろしく願います。

#### 1) 候補者の要件

・植生史学の分野で優れた研究を行い, 将来の発展に貢献すると期待される会員。

・公示日(2011年11月6日)において, 35歳未満の会員。

・本学会誌の原著論文または総説に第1著者として1編以上の論文が掲載され, かつ本学会年度大会で第1著者として口頭発表, ポスター発表, またはシンポジウム発表のいずれかを1回以上行った実績のある会員。

#### 2) 応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入のうえ, 学会事務局まで電子メールか郵送で送付してください。応募締め切りは,

2012年4月30日(必着)とします。応募用紙は、学会ホームページ <http://www.hisbot.jp/> からダウンロードできます。応募用紙に記載された個人情報、奨励賞選考以外の目的では使用しません。審査終了後は速やかに破棄し、応募者への返却は行いません。

送付先メールアドレス hbmain@histbot.jp

送付先住所 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2

横浜国立大学教育人間科学部 吉田圭一郎 (日本植生史学会庶務幹事)

### 3) 審査方法

奨励賞審査委員会により、植生史学会での業績だけでなく、他学会や国際的に公表された論文、研究発表に対する業績の内容を総合的に判断します。審査委員会は、受賞者を2012年7月末日までに決定し、総会にて報告します。なお受賞者には、2013年度大会で受賞記念講演を行っていただきます。受賞者には、表彰状および副賞として研究奨励費3万円が授与されます。

### IPC/IOPC2012 参加学生会員等に対する 補助金のお知らせ

日本植生史学会が後援する第13回国際花粉学会議と第9回国際古植物学会議の合同大会 (IPC-XIII/ IOPC-IX 2012) が2012年8月23日～30日に日本(東京、中央大学)で開催されます。日本植生史学会では、この会議のIPC/IOPC2012協力委員会共催シンポジウムで講演を行う学生会員(常勤職に就いていない者も含むが、学会員に限る)に対し、1人5万円(最大6人まで)を参加費等に充てるための補助金として助成いたします。詳細は、3月中旬頃にメーリングリストおよび学会ホームページにてお知らせいたします。

### 会員動向 (2011年9月～2012年12月)

#### 新入会員

秋山綾子(学生) 東北大学大学院

岩崎貴也(一般) 東京大学

#### 退会会員

加藤亮, 友野雄己, 菊池多賀夫, 竹本拓史

#### 除名会員

日本植生史学会会則第4条gに従い、5名の会員(一般会員4名, 学生会員1名)を除名とした(いずれも会費の長期滞納による)。

### 第8期日本植生史学会役員

(任期: 2012年度10月1日～2014年度大会)

会長: 守田益宗

評議員: 南木睦彦, 松下まり子, 紀藤典夫, 辻誠一郎

会計監査: 朝川毅守

幹事: 西田治文(事務局長), 吉田圭一郎(庶務), 松本みどり(会計), 西本寛(広報・渉外)

編集委員会: 能城修一(委員長), 工藤雄一郎(副委員長)

行事委員会: 佐々木由香(委員長), 庄田慎矢(副委員長)

### 各種連絡先

第8期から幹事が変わったため、各種連絡先が以下のようになっております。

入会・異動・退会・講読の申し込み

(バックナンバー購入, メーリングリストアドレス登録・変更, メーリングリストへの投稿記事)

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22

大学生協学会支援センター内 日本植生史学会事務局

Tel : 03-5307-1175 Fax : 03-5307-1196

E-mail : hisbot@univcoop.or.jp

連絡・問い合わせ, 転載許可申請

庶務幹事 吉田圭一郎

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2

横浜国立大学教育人間科学部

Tel & Fax : 045-339-3425

E-mail : hbmain@hisbot.jp

雑誌投稿に関する問い合わせ, 企業広告送付先

編集委員長 能城修一

E-mail : hbjournal@hisbot.jp

ホームページや企業広告に関する問い合わせ

広報・渉外幹事 西本 寛

E-mail : hbnews@hisbot.jp

日本植生史学会会則（2006年11月26日改正，2009年11月8日改正，2011年11月6日改正）

第1条（名称） 本会は日本植生史学会（Japanese Association of Historical Botany）という。

第2条（目的） 本会は植生史を中心とする関連各分野の諸問題を解明し，植生史研究の発展と普及をはかることを目的とする。

第3条（事業） 本会は上記目的を達成するため，次の事業を行う。

- a. 会誌「植生史研究」通常号を発行する。
- b. 会誌「植生史研究」特別号を不定期に刊行する。
- c. 学術講演会，シンポジウム，談話会などを開催する。
- d. 国内外の学術団体との連絡および交流を行う。
- e. その他本会の目的を達成するために必要な事業を行う。

第4条（会員） 会員は正会員（一般会員および学生会員），名誉会員，団体会員および賛助会員とする。

- a. 正会員は一般会員および学生会員からなり，植生史研究に関心を持ち，本会の趣旨に賛同する個人である。学生会員は大学等に在籍する学生，大学院生，研究生等である。
- b. 名誉会員は植生史学に顕著な功績のある会員，もしくは本会の発展に寄与した会員の中から，評議員会が推薦し総会の承認を受けた個人とする。名誉会員は会費の納入を要しない。
- c. 団体会員は会誌を定期的に購読する機関である。
- d. 賛助会員は本会の目的を賛助する会社その他の法人とする。
- e. 会費は前納制とする。会費に「植生史研究」特別号の代金は含まれない。会費額は付則に定める。
- f. 会員は会誌の配付を受け，会誌に投稿し，本会主催の諸会合に出席することができる。
- g. 会員の除名は，会費を滞納し，または，本会にふさわしくない行為等を行った会員について会長が発議し，評議員会で決定する。除名された元会員が再入会を希望する場合は，会長に申し出て，評議員会の承認を受けるものとする。

第5条（総会） 本会の最高議決機関として正会員で組織される総会をおく。総会は年1回，会長が招集する。総会での議決は出席者の過半数の賛成をもって行う。

第6条（会長） 本会に会長をおく。会長は本会を代表し，

会務を統括する。会長は別に定める選挙規定により正会員の中から選出される。任期は2年とし，3期務めることは出来ない。

第7条（幹事会） 本会に幹事会をおく。幹事会は会長，幹事および各委員会の委員長，副委員長で構成され，本会の運営を行う。

- a. 幹事は庶務幹事，会計幹事，渉外幹事，その他会長が必要と認めた幹事とする。幹事は会長が選任し，評議員会及び総会に報告する。幹事の任期は2年とし，再任，重任を妨げない。
- b. 本会に編集委員会，行事委員会その他の会長が必要と認めた委員会をおく。各委員会の委員長，副委員長は会長が選任し，評議員会及び総会に報告する。各委員会の委員は当該委員長が会長に推薦し，会長がこれを委嘱する。正副委員長及び委員の任期は2年とし，再任，重任を妨げない。

第8条（評議員会） 本会に評議員会をおく。評議員会は評議員で構成され，本会の運営にかかわる重要事項を会長の諮問に応じて審議する。評議員の定数は選挙の行われる年度の正会員数を100で割った値とし，端数は繰り上げる。評議員は別に定める選挙規定により正会員の中から選出される。会長，幹事及び各委員会の正副委員長との重任は出来ない。評議員の任期は2年とし，連続して3期務めることは出来ない。

第9条（財政） 本会の経費は会費，事業収入，寄付金等の収入をもってあてる。会計年度は，原則として毎年10月1日に始まり9月30日に終わる。会長は会計年度間の収支決算を次の総会に報告し，その承認を受けなければならない。

第10条（会計監査） 本会に会計監査1名をおき，正会員の中から総会において選出する。会長，評議員，幹事及び各委員会の正副委員長との重任は出来ない。任期は2年とし再任を妨げない。

第11条（会則変更） 本会則の変更には総会における出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

付則1 本会事務局は会長が定める住所に置くものとする。

付則2 年会費は，一般会員6,000円，学生会員3,000円，団体会員8,000円，賛助会員一口20,000円とし一口以上とする。

付則3 この会則は2009年11月8日から施行する。